

令和5年度 全国学力調査の結果より

○国語

国語は、東京都平均正答率より、6ポイント程低くなっています。中でも、1ー2の正答率が20%（4人）と極端に低いです。これは、「図表やグラフなどを用いて、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができるかどうかを見る」問いです。

●できているところと課題

話や文章の中心となる語や文をとらえること、漢字を文の中で正しく使うこともできています（95%の正答率）。しかし、図表やグラフ等を用いて、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することに課題があります。

☆対策

必要に応じて、図表やグラフなどを用いたモデルとなる文章を掲示することで、図表やグラフを用いると自分にとっても考えを深めやすく、相手にとっても良く理解できる文章になることを実感できるような指導を増やす必要があります。

○算数

算数は、東京都平均正答率より、11ポイント低くなっています。

特に、2ー（3）と2ー（4）の正答率が極端に低く、正答したのが、2ー（3）は1人2ー（4）は0人でした。ただ、これは全国でも正答率が25%以下と難しい問題でした。

●できているところと課題

正方形の意味や性質について理解することはできている（95%の正答率）。高さが具体的に示されていない複数の三角形について、それらの面積の大きさを判断するのに必要な情報を見だし、その理由を記述することに課題があります。

☆対策

具体的な数値が示されていない場面において、問題を解決する際に必要な情報を主体的に見いだしたり、適当な数値をあてはめたりして考えることができるように指導することが重要です。また、一つの具体的な事実を総合し、そこから一般的な法則や原理を導き出す帰納法的思考を身に付けられるよう経験を積ませる必要があります。具体的な数値をたくさん入れながら規則性を導き出してみる経験やノートいっぱい数字や式や図形等を書きながら解を導き出す経験を積ませることで。

☆現在、校内研究を通じて児童の学習への意欲は高まっています。異年齢交流を取り入れた授業（YOSAREタイム）を通して、学習意欲が向上し、教え合う場面が必然的に多くなっており、その成果が期待できます。今後、さらに基礎基本を丁寧に指導し、知識技能を身に付けさせ、主体的な学習によって学力向上を図ってまいります。